



優しい風の吹く街



本市の教育現場では、国籍や民族の違いを認め合い、共生する心を育むための多文化共生教育を推進するとともに、日本語サポーターが配置され、教職員と連携しながら生活や学習の支援をおこなっています。

また、2024年3月に改定された「『ありのままに自分らしく』互いに求め合える学校園所をめざして～性の多様性について考える～」授業書は、すべての学校園所に配布され、研修会や子どもたちの発達段階に応じた、より効果的な事業実践に活用されています。

私は、すべての子どもたちが安心して学校園所での生活ができるよう、インクルーシブ教育の推進を引き続き求めていきます。

活動報告

7/2・3・4 一般質問

7/10 本会議

7/14・16 高校生との意見交換会

7/26 議会報告会

7/29 宝塚市自治厚労者会

7/30 連合政策研究会

8/1 全国母と女性教職員の会

8/7 広報広聴委員会

8/10 豊かな教育の創造をめざす
兵庫県民会議

8/12 政策要望意見交換会

9/12~10/6 9月定例市議会

8/21 川崎市・子ども夢パーク
文教生活常任委員会行政視察



子どもが自由な発想で、遊び、学び、つくり続ける居場所。自由に遊べるプレーパークと「フリースペースえん」。

学校に居場所を見出せない子どもたちが自由に過ごせるところです。



1 宝塚の文化財、史跡の保全と歴史のまち歩き

＜質問＞

市内には近隣最古の古墳をはじめとする多くの遺跡、古代からの神社仏閣など、興味深い文化遺産がある。保全はどのようにおこなわれているのか。

＜教育長答弁＞

市指定文化財が56件あり、経費の一部を補助し維持管理に努めている。

＜質問＞

市制70周年2024年発行の、宝塚学検定公式テキスト最新版では「歩いて発見！宝塚」と題して、巡礼道など歴史の街歩きを推奨している。「宝塚市文化財おさんぽマップ」などの更新や新設を望む市民の声は、届いているか。

＜教育長答弁＞

文化財総合案内板や各指定文化財の説明板の設置をおこない、おさんぽマップも更新し冊子も増刷。デジタル版は地図上でも位置を確認できる。

＜質問＞

宝塚の各地に残る道標は、この地域が古くから交通の要衝であったことを教えてくれる。京伏見街道、有馬道、西宮道、丹波道が縦横に敷かれており、ありま、池田等の地名を刻んだ道標や、西国二十四番札所の中山寺や清荒神等を刻んだ道標も数多く残っている。その維持管理は。

＜市長答弁＞

昔ながらの道標は、道路施設の維持管理の対象外となっている。交通の支障となる場合は撤去する。一方で、後世へと引き継いでいく方法について関連部署で意見交換をおこない、対応を検討していく。

＜2次質問＞

文化財・社会教育担当の道標の保全への見解は。

＜社会教育部長答弁＞

道標は貴重な地域の財産としてそこにあり続けることで価値が上がり、まちの魅力の持続性への原動力となる。

＜産業文化部長答弁＞

道標に従って歴史のロマンを感じながら歩くことでより楽しさが増すものであり大切な観光資源である。



2 宝塚市立病院の緩和ケア医療について

＜質問＞

市立病院の緩和ケア医療・緩和ケア病棟の現状と課題をどう捉えているのか。

＜病院事業管理者答弁＞

2010年6月、市内で初めてとなる緩和ケア病棟、全室個室の15床を設置。専門医や認定看護師等が患者さんのケアにあたっている。一方で、近年、在宅医療を希望される終末期の患者さんの増加に伴い、在宅医、訪問看護師、介護職と入院施設との連携が求められている。

<質問>

ニーズが高まる「療養型病院」の状況や市立病院とのつながりについてはどうか。

<病院事業管理者答弁>

市立病院での急性期の治療を終え、引き続き医療ケアや介護、リハビリテーションが必要な患者さんが療養される療養型病院とのつながりは切れ目のない医療提供のために必要不可欠である。宝塚市7病院地域連携連絡会において、当院からスムーズな転院を進められるよう、日常的な課題の共有と解決を図る。

<質問>

新病院構想における緩和ケア医療との位置付けは。

<市長答弁>

市立病院は急性期医療を提供する地域の中核病院としての役割を担っており、この役割は新病院においても変わらない。一方、緩和ケア医療や終末期医療の需要が高まっていることは認識している。今後、これらの市民ニーズや市内医療機関における医療提供状況、在宅医療への流れも勘案しながら、基本計画における緩和ケア医療や終末期医療の位置付けについて決定していく。

<2次質問>

腎不全や心不全など、がん以外の患者の様々な苦痛を和らげる緩和ケア医療を求める声が近年広がりを見せている。世界保健機関(WHO)は、緩和ケアを、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(すべての人が受けられるべき医療)の一つに位置付けている。今後どのように対応していくのか。

<市立病院経営統括部長答弁>

患者さんの希望に寄り添えるように検討していく。

3 人権施策の推進と人権課題の解決

<質問>

「ありのままに自分らしく生きられるまち宝塚」第2版リーフレットが作成された。その啓発ととりくみは進んでいるのか。今後の課題は。

<市長答弁>

パートナーシップ宣誓制度の全国的な広がりや性的指向及びジェンダー・アイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律の施行など社会環境も変化してきた。一方、学校生活や病院での対応など課題は多い。現状をふまえ、カミングアウトとアウティング項目を追加している。

<2次質問>

市立病院では、診察券の性別表記を廃止、同性パートナーを家族として扱うとしたが、他病院ではまだ家族として認められていない。働きかけを。

<市立病院経営改革担当部長答弁>

市内病院の連絡会議で市の市のとりくみを伝えていく。

<質問>

ジェンダーや性の多様性に着目した授業書の活用成果があがっていることから、地域の実態に基づいた部落差別解消のために授業書作成を。

<教育長答弁>

すべての教職員が子どもたちに応じた授業をおこなえるよう、授業書作成委員会を立ち上げ、実効性のある授業書を作成する。2027年度から各小中学校での授業においての活用をめざしている。

<2次質問>

市民が安心できる多文化共生のまちづくりを。

<市長答弁>

地域の一員として、国籍問わず様々な文化を持った私たちが共生していくことは必須だと思っている。

活動カトピックス

高校生平和大使・兵庫

8/15



終戦の日「平和の鐘」打鐘
末広中央公園

レインボープライド宝塚 2025

9/28



交流タイムの当事者アピールが
心に響いた。

森臨太郎市長の言葉も

温かく安心感が広がった。

花のみちパレードでは
沿道からの応援が嬉しかった。



「いくしあ」視察

8/25



立憲民主党近畿女性議員のネットワーク研修
尼崎市子どもの育ち支援センター

風のココロ

差別事案が続く中、すべての市民の人権が尊重されるまちをめざして、現在のまちづくり基本条例を一歩すすめて「人権尊重条例」創設を提案しました。

